

第2分科会 教育課程

豊かな心や確かな力をはぐくむ教育課程の編成と校長の役割

I はじめに

豊かな心や確かな力などの生きる力をはぐくむことを目指し、各学校では教育活動を創意工夫し、教育の充実に努めている。その際、地域や学校の実態及び児童の実態を十分考慮して、いかに適切な教育課程を編成するかが重要な課題である。言うまでもなく、教育課程は校長、教頭、教務主任をはじめとして全教職員が、学年や学級の枠を越えて連携協力し、創意工夫して編成することが大切である。従って、教育課程の編成に当たっては、学校の責任者である校長が指導性を発揮し、明確なビジョンを示すとともに、学校の運営組織を生かして各教職員がいかに創意工夫できるようにするかが、成否の鍵を握ると言っても過言ではない。

そこで、仙台市立小学校A地区52校の教育課程編成の現状を把握し、校長として取り組まなければならない課題を探るとともに、教育課程編成における校長の役割を明らかにしようとするものである。

II 研究のねらい

教育課程編成の現状を把握し、校長として取り組まなければならない課題を探り、教育課程編成における校長の役割を明らかにする。

III 研究の進め方

1 第1年次（平成17年度）

・第1次アンケート調査を実施し、その集計結果を分析することにより、教育課程編成の現状と校長として取り組まなければならない課題を探る。

① 調査対象：仙台市立小学校A地区52校

② 調査期日：7月14日～7月22日

③ 回収率：100%

2 第2年次（平成18年度）

・浮かび上がった課題について、先進的な実践事例を収集・分析することにより、教育課程編成における校長の役割を明らかにする。

IV 研究の概要

1 教育課程編成の工夫（選択肢、複数回答可）

○ 当てはまる ◎ 特に重視 (単位:人)

① 豊かな心をはぐくむ工夫		○	◎
ア	基本的な生活習慣の指導	43	20
イ	ボランティア・福祉等の豊かな体験活動	42	19
ウ	教育相談の充実	25	3
エ	清掃活動や美化活動	23	6
オ	道徳の時間の充実	13	0
カ	その他 読み聞かせ等	5	0

② 確かな力をはぐくむ工夫		○	◎
ア	分かる授業に努力	40	29
イ	問題解決活動や体験的な活動を重視	36	7
ウ	朝等にドリルの時間を設定	29	3
エ	家庭学習の奨励	26	4
オ	再指導等の評価の工夫	22	2
カ	その他 朝の読書タイム等	6	0

③ たくましい心身をはぐくむ工夫		○	◎
ア	交通安全・防犯等の安全指導の重視	36	6
イ	業間時間等の運動遊びの工夫	28	7
ウ	教科体育の充実	27	9
エ	虫歯予防などの健康づくり	27	6
オ	体力の向上（マラソン、縄跳び等）	13	5
カ	その他 読み聞かせ等	3	0

④ その他		○	◎
ア	図書館やコンピュータの活用	35	9
イ	特別支援教育の推進	34	11
ウ	合唱団やブラスバンド等の音楽活動	7	3
エ	校内研究・研修会の充実	5	6
オ	道徳の時間の充実	2	0
カ	その他 学生ボランティアの活用等	5	0

①～④から、地域の実態や時代の背景を考慮した工夫が共通に見られる。

2 教育課程編成で留意した児童等の実態 (一部)
(選択肢, 複数回答可)

①基本的な生活習慣が身に付いていない(31人)	※ 観点ごとに最上位を示した。
②基礎学力が十分身に付いていない(21人)	
③交通・防犯等の安全上の心配がある(24人)	
④今求められている教育課題である(27人)	

教育課程編成の工夫を裏付ける児童等の実態が浮かび上がっていると考える。

3 校長のビジョンの示し方

① ビジョンを示す機会(選択肢, 複数回答可) (人)

ア 職員会等で	50
イ 三役会等で普段から	33
ウ 年度末反省会等で	32
エ 機会をとらえ主任層へ	16
オ 教育計画作成前必要な担当へ	13
カ 教育計画作成後必要な担当へ	13

② 悩みや苦勞など(自由記述)

ア 教職員の意識改革や資質向上に努力しているがなかなか難しいなど。(25人)
イ 共通理解を徹底して図りたいが会議の時間が少なく苦勞するなど。(9人)
ウ 校長のビジョンが学年・学級等において具現できるような心がけているなど。(7人)
エ 教職員との垣根をなくし信頼関係を築くことに留意しているなど。(7人)

①②から、職員会のみならず機会をとらえ普段から校長のビジョンを浸透させようとしていることが分かる。また、教職員の意識改革や資質向上等に苦勞していることがうかがえる。

4 教育課程編成の手順及び留意点

(選択肢, 複数回答可)

① 教育課程の作成に当たって (人)

ア 改善点を明確にし改善点のみ全職員で協議する	31
イ 改善点を明確にして作成し最終的に校長が確認する	29
ウ 改善点を明確にして作成し教頭, 教務が点検する	3
エ 改善点は明確にし, あとは担当に任かせる	3

改善点を明確にして作成し全職員で協議する, または校長が最終確認するが大部分であった。留意点としては, 指導の仕方についてが17人, 共通理解を図るについてが9人, 経営参加を図るについてが8人であった。

② 教育課程の実施に当たって (人)

ア 職員会議等で授業等について必要な指導を行う	40
イ 学年行事等をできるだけ参観し必要な指導を行う	35
ウ 必要な場合, 特定の学級に指導に入ることもある	27
エ 週案により指導内容等を把握し必要な指導を行う	15
オ 校舎内を巡視しながら子どもの学習の様子をみる	4

職員会議だけでなく, 必要によって学年や学級の中に入り指導していることが分かる。留意していることは, 実施状況の把握と指導についてが21人, 週案の指導についてが8人と, 職員の指導に心を砕いていることがうかがえる。

③ 教育課程の評価に当たって (人)

ア 全体に関わる行事についてはその都度反省評価する	50
イ 保護者のアンケートを教育課程改善の参考にする	43
ウ 全般にわたり年度末とその中間に学校評価を行う	41
エ 学校評価したものを保護者にも公表している	22
オ その他 年度末に学校評価を行っているなど	7

保護者のアンケートを参考にしている学校が8割を超えている。留意していることは, 公表についてが15人, 外部評価についてが14人と, 時代を反映していることがうかがえる。

5 意見・感想など(割愛)

V 校長が抱える課題

A地区52校の実態把握から, 校長が抱える次のような課題が浮かび上がってきた。

- ① 校長のビジョンの具現化の方法について
- ② 教育課程実施状況の把握の仕方について
- ③ 教育課程の評価と公表の在り方について
- ④ 保護者による学校評価の在り方について
- ⑤ 教育課程編成に大きな影響を与える特別支援教育の在り方について
- ⑥ 教職員の意識改革と指導力の向上について
- ⑦ ビジョンを具現化するための予算とスタッフについて e t c

VI 研究のまとめ

各学校では地域や児童等の実態を的確に捉え, 豊かな心や確かな力をはぐくむべく工夫して教育課程編成に取り組んでいる。その際, 校長は様々な場に関わり指導性を発揮している。また, 各校長はリーダーとして明確なビジョンを示し職員に浸透を図るとともに, その具現化に努力している。さらに, Vで示したような課題を抱えながらも, 各校で教育課程編成の様々な工夫が見られる。

次年度は, この研究を足がかりとして, 校長が抱える課題の解決に向け研究に取り組み, 豊かな心や確かな力をはぐくむ教育課程編成と校長の役割を明らかにしていきたい。